

住宅防火情報

～ 住宅用火災警報器を設置しましょう ～

第6号 (H21.8)

消防庁予防課

住宅用火災警報器（住警器）の普及に向けた取組

消防庁に寄せられた住警器普及に向けた取組を紹介します。

★「見せて・聞かせて」住宅用火災警報器の普及活動★

青森県の八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部では、設置率向上のため、職員が作詞・作曲した「家庭あんしん音頭」と、職員による寸劇「防災戦士ダッシュ119」により、普及活動に力を入れている。

○「家庭あんしん音頭」

この曲は、消防職員が作詞・作曲、三味線・太鼓の演奏も担当、歌は、地元の民謡歌手「久保美幸」さん、踊りの振り付けは、日本舞踊泉流「泉 紫峰」師匠によるものである。

1 ハア～ ア～ア～

巷で噂の 粋な奴
あなたの 命を 守ります
父さんダメダメ 寝タバコは
家族の安心 笑い顔
ソーレ ピーピー 住警器
ソーレ カンカン 火の用心
付けて良かった 火災警報器

2 ハア～ ア～ア～

音で知らせる にくい奴
あなたの 財産 守ります
母さん注意よ ガスコンロ
防火の願いを 忘れずに
ソーレ ピーピー 住警器
ソーレ カンカン 火の用心
付けて良かった 火災警報器

(3、4番省略、ホームページ参照)

○「防災戦士ダッシュ119」

これは消防職員6名の構成で行う寸劇で、「ファイアーダッシュ」・「アンビューダッシュ」・「レスキューダッシュ」の3戦士が主役となり住警器設置を訴える内容となっている。

この3戦士の衣装は、活動服・救急服・救助服を身にまとい、その上に八戸地方ならではのアイスホッケーの防具を改良して身につけたシンプルなものである。



「防災戦士ダッシュ119」

「家庭あんしん音頭」・「防災戦士ダッシュ119」は、大型店舗・公会堂等での催物に出場依頼が多数あり、住警器の設置促進へ向けての一役を担っている。

※ 八戸広域消防本部のホームページで公開中

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/koiki/oshirase/keihouki/keihouki.html>

★住宅用火災警報器のPRソングができました★

♪ 天井に付いてる白い円盤 うちのUFO住警器～♪

東京消防庁臨港消防署では、来年4月1日から、東京消防庁管内すべての住宅に住警器の設置義務化を前に、設置を呼びかけるPRソング「うちのUFO住警器」を作成した。

この曲は、言葉での設置推進とともに、「耳」から覚えてほしいとの願いと、子供でも簡単に覚えられ、そして口ずさむことができるようなメロディを心掛けている。消防署ホームページ（HP）で曲をダウンロードして取り込むことが可能となっており、いつでも・誰でも・どこでも「うちのUFO住警器」を口ずさめるようPRしている。

また、防災訓練会場を始めとして、事業所や町会・自治会の会議等の席上で「うちのUFO住警器」を紹介し、住警器の設置をアピールしているほか、地元の中央FMやCATVで曲の紹介をしている。

※「うちのUFO住警器」は、臨港消防署ホームページでダウンロードして自由に使用できる。

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-rinkou/index.html>

「うちのUFO住警器」

作詞・作曲 池田 和生（臨港消防署長）
歌 佐藤 優子（臨港消防署署員）

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 天井に付いてる 白い円盤
もしも火事になったとき
赤い目 チカッと光らせて
大切な命を 守ってくれる | うちの UFO 住警器
すぐに教えてくれるんだ
休まず見張りをしているよ
うちの UFO 住警器 |
| 2 | 一つの部屋に一つずつ
煙や熱をキャチして
かわいいシippoをぶらさげて
いつも家族を 守ってくれる | うちの UFO 住警器
音で知らせてくれるんだ
24時間眠らずに
うちの UFO 住警器 |

住宅用火災警報器（住警器）の奏功事例

平成 21 年 1 月-6 月の間、消防庁に寄せられた住警器の奏功事例（情報）
事例件数 76 件

【火災に早く気づき、命を取り止めることができた事例】

- 一般住宅の 2 階で就寝中、ベッド上の寝具がヒーターに接触して出火した。住警器の警報音により目覚め、階段を下りて玄関から避難した。火傷を負ったが命に別状はなかった。（福島県福島市）
- 共同住宅 2 階の居住者（女性）が台所で調理中に意識消失したため、ガスコンロにかけてあった鍋の具材が焼け焦げて発煙した。居室に設置してあった住警器が作動したので、下階にいた住人が警報音に気づき、確認に行ったところ換気扇から煙が出ていたため 119 番通報をした。（埼玉県桶川市）
- 60 代女性が 1 階台所で天ぷら油を入れた鍋をガスコンロにかけてそのまま放置し、2 階で息子と話をしていた（その間約 20 分）。1 階台所及び階段に設置してあった住警器が鳴動し、台所の火災に気づいた。火の勢いが強いため、初期消火せずに息子と避難した。（青森県青森市）
- 3 階建一般住宅の 2 階にいた母親が、住警器の警報音に気づき家の中を確認したところ、1 階居室から煙が出ていた。扉を開けると部屋中が煙に包まれていたため、初期消火を断念し、119 番通報するとともに 3 階にいた子供 2 人と無事に避難した。（大阪府寝屋川市）

【早く気づき、火災発生または拡大に至らなかった事例】

- ガスコンロのグリルで餅を焼いた後、火を消し忘れたため、グリルの受け皿に残っていた油粕に着火した。孫が、台所から「火事です。火事です。」という警報音が聞こえると祖母に伝えた。祖母が台所に行くと、ガスコンロのグリルの排気口から炎が出ていたため、そばに置いてあったスプレー式の消火器を使って消火し、119 番通報をした。（青森県三沢市）
- 併用住宅の居間に設置してあるテレビコンセント差込口のトラッキングにより発火し

た。就寝中の家人が、住警器が鳴動しているのに気づき、寝室に煙が漂っていたので、火事だと思い消防署へ通報した。その後、家人が消火器による初期消火を行い鎮火した。（鹿児島県鹿児島市）

- 居住者（70代男性）が、台所で煮物を温めようと鍋をガスコンロにかけ火をつけた。その場を離れたため、鍋が空焚き状態になり、住警器が作動した。警報音に気付いた居住者がコンロの火を消し、119番通報した。（鹿児島県鹿児島市）
- 小学生の男子が、居間のこたつで宿題を終えた後、隣の部屋にいたところ、居間より住警器の警報音が聞こえてきた。確認すると、器具コードの短絡によりこたつ布団が燃えていた。男子は、お風呂の残り湯を洗面器に汲み、燃えているこたつ布団にかけ初期消火を行うとともに119番通報した。（大阪府枚方市）
- 台所で50代の女性がガスコンロのグリルで魚を焼いた後、グリルの火を消し忘れたため、受け皿に溜まっていた魚油に着火した。居間で食事をしようとしていた女性が、台所に設置してある住警器の警報音に気づき、ガスコンロのグリルから炎と煙が上がっているのを発見した。隣の家に住んでいる姉に助けを求め、姉が台所の消火器で消し止めた。（鹿児島県鹿児島市）
- 居住者（60代男性）が、鍋をガスコンロにかけて点火したまま、その場を離れた。鍋が空焚き状態となり、内容物が発煙し、洋間に設置されていた住警器が作動した。隣の部屋にいた居住者が警報音に気づき、ガスコンロのスイッチを切った。（愛知県大府市）
- ガスコンロで煮物を作っていることを忘れ、寝てしまった。その後、煮物が焦げ、その煙により住警器が作動した。警報音で目を覚ました居住者がコンロの火を止め、焦げた鍋を処理し、火災には至らなかった。（和歌山県海南市）
- 居住者が天ぷら鍋に天ぷら油を3分の1程度入れ、ガスコンロに鍋をかけ点火したまま寝込んでしまった。鍋の過熱により発火炎上し住警器が作動した。居住者が警報音で目覚め、台所へ行ったところ、鍋から炎が上がっているのを発見した。鍋に蓋をして初期消火した。（長崎県佐世保市）
- 居住者がガスコンロに鍋をかけ、火をつけたまま寝込んでしまった。鍋の過熱により煙が発生し、居室に設置されていた住警器が作動した。居住者が警報音で目覚め、ガスコンロの火を消し火災には至らなかった。（埼玉県さいたま市）

- 居住者が台所のガスコンロに鍋を火にかけ、その場を離れた。隣室にいと、台所に設置していた住警器が作動し、ブザーと火災を知らせる音声警報が聞こえた。台所に行くと煙が充満していたため119番通報した。居住者は119番通報後、ガスコンロの火を消すことが出来たため大事には至らなかった。（愛知県豊川市）
- 家人が寝たばこにより焦がした座布団をゴミ袋に入れ、台所に放置した。就寝中に、居室内に設置している住警器の警報音に気づき、座布団が燃えているのを発見した。ペットボトルに汲んだ水道水をかけ、初期消火した。（秋田県秋田市）
- 居住者がガスコンロのグリルで魚を調理中に放置したため、魚が焦げ台所に設置されていた住警器が作動した。住警器の警報音に気付いた居住者が119番通報し、ガスコンロの火を消した。（埼玉県さいたま市）

【隣人が警報音に気づき、火災発生に至らなかった事例】

- 居住者が鍋を火にかけたまま外出したため、鍋から発煙し、室内に設置されていた住警器が作動した。隣室の住人が住警器の警報音に気づき、119番通報した。到着した消防隊が隣室からベランダ伝いに部屋に入り、コンロの火を消すとともに換気した。（埼玉県川越市）
- 共同住宅の2階に居住する40代の男性が、鍋のおでんを温めるためにガスコンロに火を付け、消し忘れたまま出勤した。隣人が、「ピーピー」という住警器の警報音に気づき、屋外廊下に出てみると焦げ臭いにおいのがしたので知らせようとしたが、居住者が不在だったため不動産管理者に連絡した。駆け付けた不動産管理者が119番通報し、マスターキーで中に入ると居間の住警器が作動しており、鍋内のおでんが焦げていた。（青森県八戸市）
- 家人が鍋をコンロにかけたまま外出したため鍋が焦げ、住警器が鳴動した。近隣住民が警報音に気づき、消防署に通報及び階段踊り場のガスの元栓を閉めたため、火災に至らなかった。（静岡県静岡市）
- 火元の家人が外出中、下階の住人が焦げ臭さと住警器の警報音に気づき119番通報した。到着した消防隊が屋内侵入したところ、寝具類及び畳が無炎燃焼していたため、水道水にて消火した。出火原因はタバコの不始末によるものと思われる。（埼玉県三郷市）
- 警報音に気がついた近隣住民が、窓から煙が出ているのを発見し119番通報した。住

人は留守であり、消防隊がベランダ側の窓ガラスを破壊進入し確認したところ、コンロにかけられた鍋の消し忘れであった。（埼玉県三郷市）

- 居住者が台所のガスコンロでたけのこを茹でていることを忘れ、外出した。設置されていた住警器が作動し、近隣住民が警報音に気づき119番通報した。消防隊が到着直後に帰宅した居住者が火を止め、大事に至らなかった。（愛知県豊川市）
- 居住者（80代）が、台所のカセットコンロに鍋をかけたまま忘れてしまい外出した。鍋が焦げ、発煙したため住警器が作動した。隣人が住警器の警報音に気づき、119番通報をした。先着の消防隊がカセットコンロの火を消し換気を行った。（愛知県豊田市）

—— 住宅用火災警報器（住警器）の悪質訪問販売等の事例 ——

これまでに消防庁に寄せられた悪質訪問販売等に関する事案は124件となりました（[別添1参照](#)）。依然、被害が全国的に発生しており、引き続き注意が必要です。

平成21年1月-6月の間、消防庁に寄せられた悪質訪問販売等に関する事案（情報）
事案件数3件

【設置しなければならぬと脅迫する手口】

- 設備業者風の男性2名が一般住宅を訪れ、「消防署で言われているでしょ。設置しなければだめです。廊下、風呂場、出入り口等で10個設置しなければいけない。」と強い口調で購入をせまった。近所でも設置した家があると言われたが、その家は以前より設置しているのを知っていたので、「消防署で聞いてから設置します。」と答えたら帰っていった。（茨城県取手市）

【消防団からの委託で来たと言った手口】

- 「消防団からの委託を受け、住警器の訪問販売を行っている。」と言って売り込みに来た。訪問宅が消防団員宅であり、「消防団では、そのような委託はしていない。」と言うと、「そうですか。」と言い立ち去って行った。（新潟県上越市）

【消防職員だと偽りとりつけようとする手口】

- 「消防署から来た。」と一般住宅を訪れ、「住警器が義務化になるため、一人暮らしの高齢者宅をまわっている。こちらのお宅には住警器設置済みのシールが貼られていない。設置してはどうか。」と言ってきた。家主が不審に思い消防職員である身分証明証の提示を求めたところ、提示することなくその場を立ち去った。(福島県須賀川市)

★【悪質訪問販売のよくある手口】★

- ・ 「もう義務化されています。」と嘘をついてあおる。
- ・ 「消防署(または市役所)から来ました。」と嘘をついてだます。
- ・ 強引に部屋に押し入って点検のフリをして売りつける。等

★【不適正な訪問販売で購入、契約してしまったら・・・】★

クーリング・オフ制度

住警器の訪問販売は「特定商取引に関する法律」に基づくクーリング・オフ制度の対象であり、契約後一定の期間は契約の解除が認められている(住警器の訪問販売については8日間)。

※詳しくは、お住まいの地域の消費生活センターへお問い合わせ下さい。

(国民生活センターURL:<http://www.kokusen.go.jp/map/index.html>)

住宅防火対策推進の取組に関する情報をお寄せ下さい。

【連絡・送付先】

消防庁予防課予防係

TEL 03-5253-7523 FAX 03-5253-7533

E-mail yobouka-y@soumu.go.jp

